

2021年度の学部学生数 262.6万人で過去最多！

女子占有率は45.6%で過去最高！

旺文社 教育情報センター 2021年10月14日

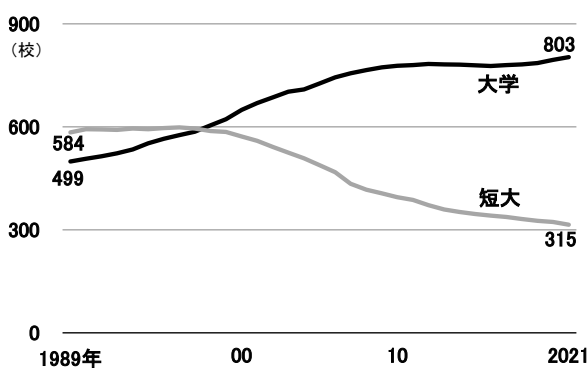
2021年度の「学校基本調査」速報が先ごろ公表された。大学の学部学生数は262.6万人で過去最多を更新、女子の人数も過去最多、割合も過去最高となった。一方で、短大の学科(本科)学生数は10万人を割った。本稿では「学校基本調査」速報に基づき、2021年度の大学・短大の学校数・学生数などを経年データとあわせて概観するとともに、弊社による次年度以降の受験生数予測を示す。

◎「学校基本調査」

・学校教育行政に必要な基本的事項を明らかにすることを目的として、1948年度(昭和23年度)から毎年実施されている。幼稚園・小学校・中学校・高校・特別支援学校・専修学校・大学・短大など全学校を対象として学校数、在学者数、入学者数、卒業生数、入学の状況・卒業後の状況、教員数などを調査。

・今年度の調査結果「速報」による公表事項は、コロナ禍の影響から学校数・在学者数・教員数にとどまった前年同様となった。卒業後の状況など全項目の集計結果は、12月に確定値として公表予定。

大学数、短大数の推移



(校数)				
1989年	合計	国立	公立	私立
大学	499	96	39	364
短大	584	41	53	490



(校数)				
2021年	合計	国立	公立	私立
大学	803	86	98	619
短大	315	0	14	301

※大学に大学院大学を含む。※学生募集停止の大学・短大も正規の廃止手続が完了していない場合は含む。※通信教育のみを行う大学・短大は除く。

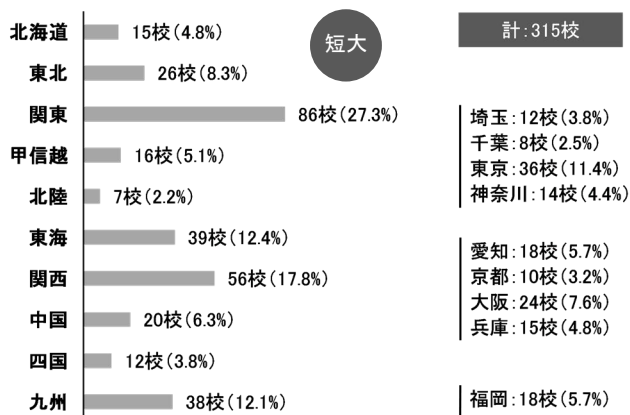
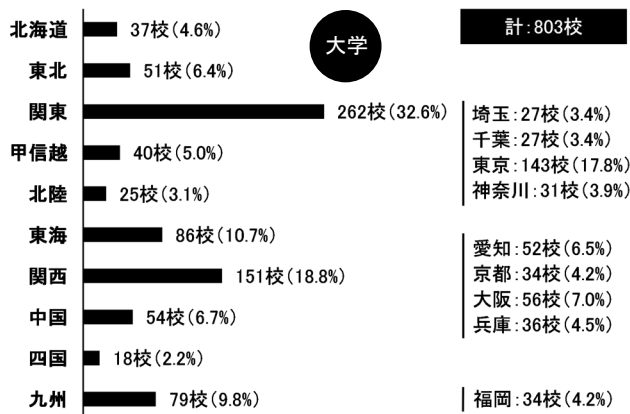
大学は増加、短大は減少が続く

2021年の大学数(大学院大学を含む)は前年より8校増(公立+4校、私立+4校)の803校。短大は前年より8校減(公立△3校、私立△5校)の315校。

かつては短大のほうが大学より多かったが、1998年に逆転。以降、短大は、短大部の学部化や4年制大学への転換、募集停止が相次ぎ減少の一途を辿っている。

設置者別で見ると、全体に対して私立が占める割合は高く、1989年→2021年の比較で見ると、大学:72.9%→77.1%、短大:83.9%→95.6%と、いずれも率は上昇。公立大学の増加も目につく。1989年39校が、2021年には98校に。全体の1割強を占めている。

2021年度 大学・短大のエリア別の設置状況



大学・短大ともに大都市圏での設置が多いが、短大はいくぶん地方に分散

大学の都道府県別の設置状況では、東京が関西全体と並ぶほど群を抜いて多く、全体の17.8%を占める。首都圏1都3県の合計は28.4%、日本の大学の4分の1超は首都圏にある。他エリアでも、愛知・京都・大阪・兵庫・福岡など大都市への集中が見られる。

設置者別に校数が多い都道府県は、国立：東京12校・北海道7校、公立：北海道6校・広島5校、私立：東京129校・大阪52校など。

短大も、首都圏1都3県の合計が22.2%を占めるなど、大都市圏に集中しているが、大学に比べると、いくぶん他エリアにも分散していると言えよう。

※エリア・都道府県は、大学・短大の本部所在地による。
※大学に大学院大学を含む。
※学生募集停止の大学・短大も正規の廃止手続が完了していない場合は含む。 ※通信教育のみを行う大学・短大は除く。

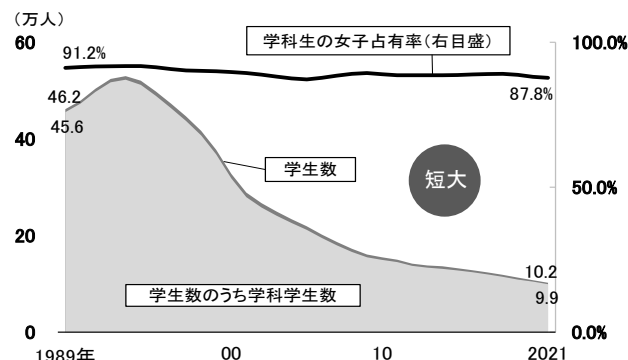
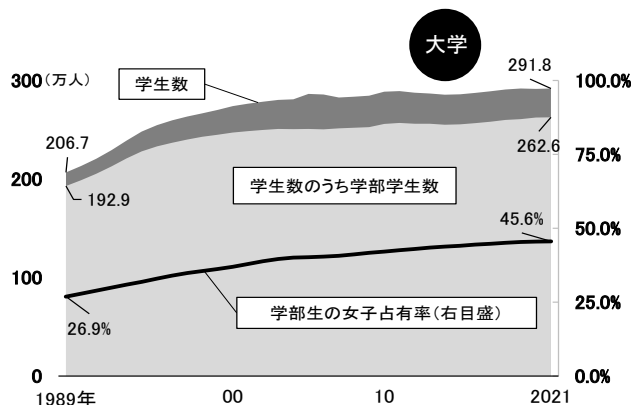
大学・短大の学生数 & 女子占有率の推移

学部学生の女子率は上昇続く。短大の学科学生数は10万人割れ

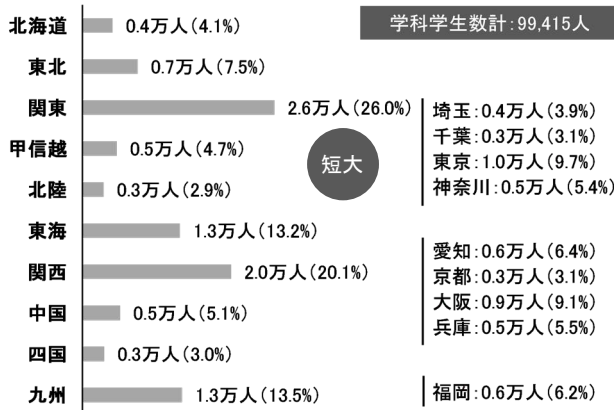
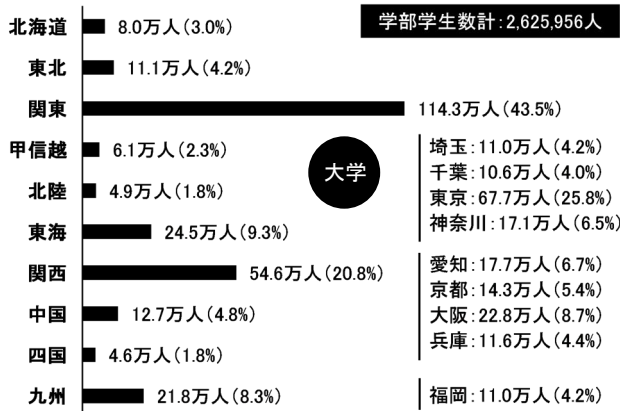
大学の学部学生数は、前年より約2,400人増の262.6万人。2016年以降は1万人～1.5万人規模の増加だったが、増加数は鈍化。設置者別の人数は、国立：43.4万人、公立：14.1万人、私立：205.1万人で、78.1%を私立が占める。女子の学部学生は前年より約3,200人増え、占有率45.6%。人数・率とも過去最高となった。

短大の学科学生数は、前年より約5,500人減で、10万人を割った。

※学生数には大学院生(大学の場合)、別科・専攻科の学生、聴講生等を含む。 ※通信教育の学生は含まない。



2021年度 大学(学部)、短大(学科)の エリア別の学生数



学部学生数は首都圏だけで 40.5%を占める。 とりわけ東京の学生数が多い

大学の学部学生数の都道府県別状況を見ると、東京だけで関西全体を超え全体の25.8%を占める。首都圏1都3県の合計は106.4万人で、全体の40.5%に達している。首都圏の大学設置数が全体の28.4%であることを踏まえると、首都圏に大規模校が多いことの裏返しと言えよう。

グラフ中に示されている県に次いで学部学生が多いのは、広島5.5万人、宮城5.0万人、岡山3.9万人、静岡3.4万人、滋賀3.1万人、茨城3.0万人などと続く。

短大も、首都圏1都3県の合計が22.1%を占めるなど、学生は大都市圏に集中しているが、設置状況と同様、大学に比べると、いくぶん分散している。

※エリア・都道府県は、大学の学部、短大の学科所在地による。
※通信教育の学生は含まない。

ここまで「学校基本調査」速報に基づいて大学数や学生数を示した。これとは別に、2021年4月の学生募集を実施した大学に関して、大学数や学部・学科数、新設学科の傾向、学問分野別の設置状況などに関する分析を、2021年4月1日に旺文社教育情報センターから配信している。[こちらの記事](#)も参照していただきたい。

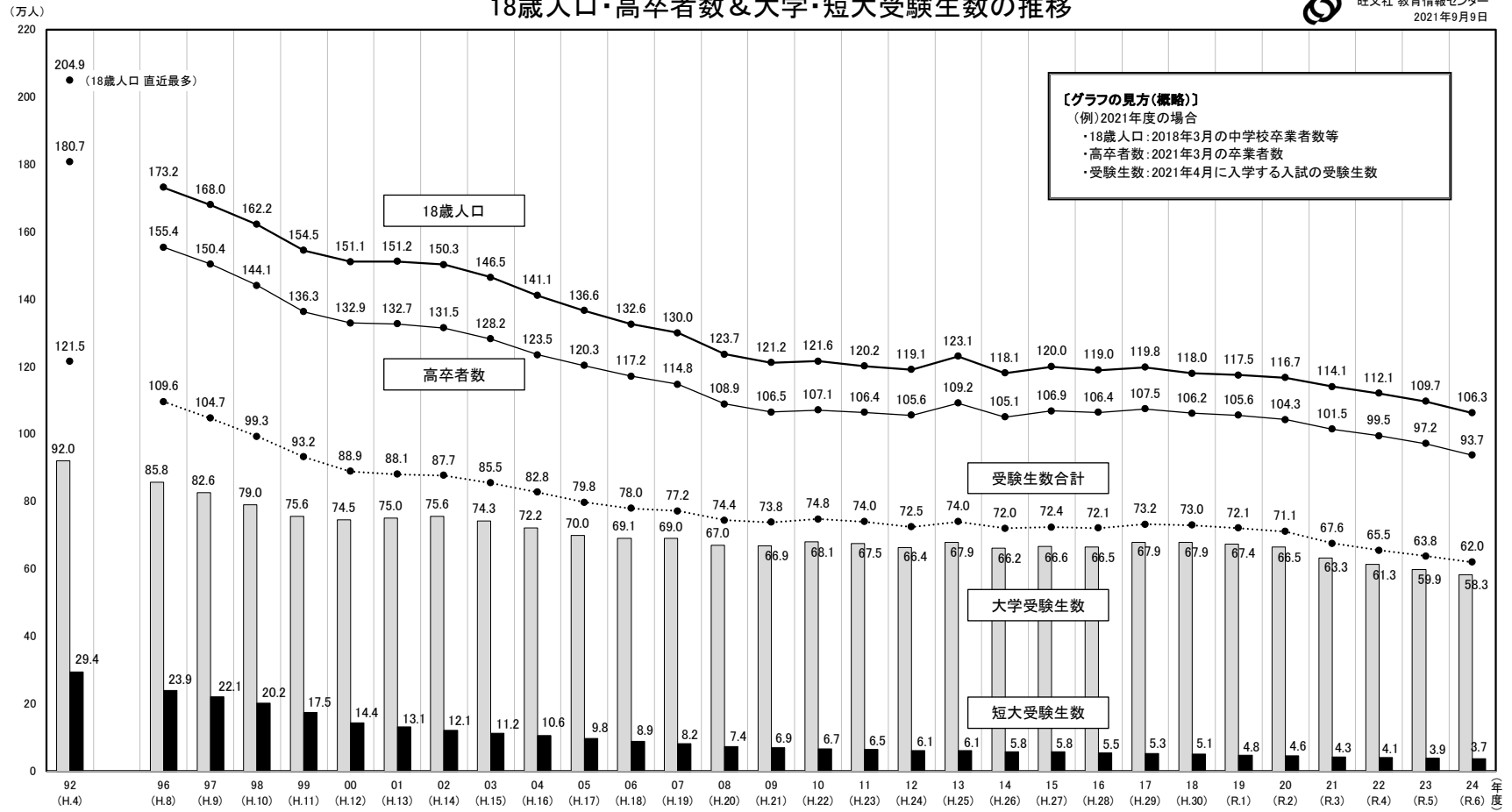
2022年入試での「大学・短大受験生数」は65.5万人と予測

最後に、「学校基本調査」や入試結果などを基に、今後の受験生数予測を次ページにグラフで示した。18歳人口の減少や大学・短大志願率の動向なども踏まえ、旺文社教育情報センターでは、2022年入試の受験生数は65.5万人と予測（対前年3.1%減）。うち、大学受験生数61.3万人（同3.2%減）、短大受験生数4.1万人（同4.7%減）。2022年入試は、前年同様に安全志向、コロナ禍による地元志向などは続くと見られる。受験生数の減少により、大学・短大への入学者の減少も想定される。

(2021.10 加納)

次ページに「18歳人口・高卒者数&大学・短大受験生数の推移」グラフを掲載

18歳人口・高卒者数&大学・短大受験生数の推移



大学・短大 現役志願率(%)	51.0	54.4	54.6	55.0	55.5	55.6	55.9	56.1	55.7	55.7	55.9	57.4	58.8	60.1	61.2	61.8	61.3	60.6	60.4	60.4	60.8	61.1	61.5	61.8	61.2	61.4	61.0	60.6	60.5	60.9
大学・短大 進学率(%) (含既卒)	38.9	46.2	47.3	48.2	49.1	49.1	48.6	48.6	49.0	49.9	51.5	52.3	53.7	55.3	56.2	56.8	56.7	56.2	55.1	56.7	56.5	56.8	57.3	57.9	58.1	58.6	57.5	56.9	56.7	56.8

【注】文科省「学校基本調査」より算出。2020年以前は実数、2021年以降は旺文社による推定値。「18歳人口」…3年前の中学校卒業業者数、中等教育学校前期課程修了者数および義務教育学校卒業業者数の合計。
「高卒者数」…高校卒業業者数(全日制、定時制)、中等教育学校後期課程修了者数の合計。通信制は含まない。「受験生数」…高認(大検)合格者を除く。「現役志願率」…高卒者における割合。「進学率」…18歳人口における割合。